

令和7年度 愛知県医師会交響楽団 総会 議事録

開催日時 令和7年4月12日（土） 午後6時～7時23分

開催場所 名古屋市医師会館 6階講堂

参加者 団員36名＋運営委員5名

議事

開会の挨拶

榊原 敏文 運営委員長

議案1. 令和6年度運営協議会報告

1) 令和7年1月29日（水） 愛知県医師会仮事務所（港区）にて開催

第1号議案 令和5年度事業報告、決算承認の件

第2号議案 令和6年度事業計画及び予算案承認の件

第3号議案 令和7年度以降の事業計画案承認の件

以上の議案につき全て承認を得られた。

2) 協議議案

① 細則の一部改訂について

財務委員会について第7条として追加および新型コロナウイルス感染症の流行時に関する付則の削除

② 第42回定期演奏会チャリティー先候補について

特定非営利活動法人 愛知こどもホスピスプロジェクトを医師会に推薦し承認された

3) 報告事項

① 第41回定演総会について

盛会であったことを報告

② 入団希望者に関しての愛知県医師会との連携について

医師会に入団希望者から問い合わせがあり申込フォームに入力していただくようにしてあったが、今回そのチェックをしていなかったため問い合わせが2度あったという事案が発生し医師会事務局から指摘された。その方は入団することになった。

HPを使って入団希望者との連絡を密にするためにどうするかということについて今後HP担当の伊藤先生とも相談して変えていく。

議案2. 令和5年度決算、令和6年度予算案について（岩崎運営委員）

R6年度への繰越金が前年度に比べ約135万円減少、定演をしらかわホールで行い演奏活動収入が少なかったこと、楽器保管料や搬送量などの楽器関連費が80万ほどかかっていることが要因。

R6年度は次年度への繰越金が約35万円減少する見込み。

R6年度の決算は現在作成中。

（運営委員長）この2年間は赤字経営。今後団費の値上げもありうる

議案3. 令和7年度の事業計画案

1) 第42回定期演奏会（橋本運営委員長）

日時：令和8年1月25日（日）

会場：芸文コンサートホール

指揮：古谷誠一氏

曲目：ウェーバー 歌劇「オイリュアンテ」序曲

モーツァルト 交響曲第40番ト短調（ベーレンライター版）

ブラームス 交響曲第2番ニ長調（ブライトコップ版）

2)今後の練習日程（橋本運営委員長）

技術委員会のサークルスクエアですでに周知してあるが、5月10日（土）がtutti、17日（土）が弦分奏、24日が管分奏、6月7日にtutti(北文化小劇場)。後半は未決定。後半は古谷先生の練習日のみ決定なのでほかに練習が入る可能性がある。

3)パート譜の配布について（小山運営委員・ライブラリアン）

オイリュアンテの楽譜はインターネットにアップロードされているものを使うか購入するかは検討中。版についてブラームスはブライトコップ、モーツァルトはベーレンライター。モーツァルトについてはクラリネットがあるものを用意したが無いものにするのかは指揮者に問い合わせ中。部数が足りない分は自分たちでなんとかしてほしい。

議案4. 第14回室内楽演奏会の報告（橋本技術委員長）

日時 令和7年3月8日（土）・3月22日（土）

場所 東文化小劇場

出演団体 3/8 6団体 管楽器2 弦楽器3 弦楽器合奏：指揮 酒井先生

3/22 10団体 金管4 木管3 弦楽器2 全体合奏：指揮 富久田先生

アンケート結果の一部紹介

宣伝が足りないのではないかという意見があった

室内楽の会計について

（収入）

参加費 2,000円×60名＝118,000円

オケから補助金（指揮者2名謝礼金）26万円

オケから補助金（練習会場費） 59,160円

収入合計 437,160円

残金 約25,000円

（支出）

本番会場費 60,600円

備品使用料 11,340円

チラシ（500部）印刷代 2,266円

プログラム（200部）印刷代 8,653円

文具等当日備品 4,309円

コピー等 5,260円

指揮者謝礼 26万円

練習会場費 59,160円

支出合計 411,588円

（企画委員長）室内楽に掛かる費用は基本室内楽に出る方で負担して収支が合うということだが、今回指揮者が2人でかなり謝礼費用がかかるのでオケから出していただくということ。今回練習場として医師会館を使わせていただく予定だったがうまく取れなくてやむをえず有料の練習場を使うことになった。その分余分になるのでオケから追加で出していただくようお願いした。

（団員）室内楽を始めた頃は有志でやるということですので演奏者が負担するという形で進めてきたが、ある時から会場費はオケで見るということになり今回はトレーナーのかなり大きい金額をオケから補助という形でみていただいた。演奏者はいいが参加しなかった人からみると不公平である。オケのお金を使うということをきちんと説明してどの範囲を今回やるということを説明してやっていくのがいいのではないか。先ほどの予算の説明でさらにマイナスが増えるということで令和7年度予算に行くときにどうするか、室内楽演奏会をどういう形で開催していくか、今まで有志でやっていく、実行委員会が面倒をみる、というのがいつの間にか技術委員会が面倒を見るようになった。予算もオケでやる。参加費も今回2,000円だったが5,000円の時もあった。そういうところが曖昧なのでそれをきちんと団員の皆さんに説明いただきたい。

（運営委員長）これからも室内楽を続けていこうとすると楽団の演奏活動の一つとして位置付けた方が、今回のように費用の一部を補助していくというふうにしていかないと、またそれをする事によって参加する人を増やしたりして、室内楽の演奏会自体は楽団の1つの正式の活動であるという風にした方がとても重要だと思う。

（団員）今まではそうではないという形で進めてきている。なし崩し的に変わっていつてしまうのではなく、オケの演奏活動の一環として続けるということをきちんと皆さんと協議して決めることではないかと思う。総会の場でそこをきちんと位置付けしていただきたい。

（運営委員長）この件に関しては合同委員会で協議をして今後の室内楽のあり方について考えてまた発表したいと思う。今後室内楽はしばらく出来ないかもしれないが、次回やるときには正式な室内楽の立場できちんと考えたいと思う。

議案5. 令和7年度以降の事業計画案（榊原運営委員長）

令和7年	10月	名古屋医療センター ボランティアコンサート
	11月15日(土)	愛知県医師会依頼演奏
	12月	東名古屋病院ボランティアコンサート
令和8年	1月25日(日)	第42回定期演奏会
	7月18日(土)	医師信用組合依頼演奏
令和9年	1月24日(日)	愛知県医師会設立80周年記念特別演奏会
		会場：芸文コンサートホール
		指揮：佐々木新平氏
		曲目：ベートーヴェン 交響曲第9番「合唱付き」ほか
	11月～3月	第43回定期演奏会予定？

（企画委員長）第九のオケのヘッドとして宇野先生に依頼した。理由としては医師会の幹部との折衝で医師会に顔の広い宇野先生に先頭に立っていただいて円滑に交渉を進めていただきたいので。実務については私（佐藤）と安藤さんでやっていきたい。設立90周年の時経験者がいないと困るの

で実行委員会に今回は若い人たちにも入っていただいて進めていこうと思っている。人選は検討中でぜひ協力をお願いしたい。

指揮者は佐々木先生に決まっているがソリストは合唱指導の井原先生に探していただくようお願いしている。今年の秋には合唱団を医師会で募集しそのあとに一般の方の募集を開始する。来年4月ごろには合唱団の大方のメンバーが決まり160人の規模で、来年春ごろから練習開始、オケの練習開始はもう少し後からというスケジュールである。

(運営委員長) 第九はコンサートホールでやるので客が1,800人しか入らず、チケット代が今までより高くなるかもしれない。その分皆さんのチケットの負担が増えるかもしれない。コーラスの人たちも人数が減るので個人の負担が増えることは了承していただきたい。

議案 6. 今年度の各委員会委員についての紹介 (各委員会委員長)

合同委員会を下記委員会の委員長とコンサートマスターで毎月1回会議を行っている。

1) 運営委員会 (榊原運営委員長) 榊原、岩崎、高木、宇野、小山の5人が運営委員。

運営委員は県医師会との交渉が一番、ほかの委員会でやっていることを運営委員会で審議して決めるのが運営委員会である。

2) 財務委員会 (岩崎財務委員長) 新たに細則が改訂され私が幹事の中で会計を担当しているので私が委員長を拝命した。副委員長は委員長が一人指名することになっているので渡辺百合子さんを指名。ほか委員については若干名ということになっているので、現在武内美和子さん、橋本加永子さん、岩崎甲子さんをお願いしている。任期については規定されていない。

団費について額は運営委員会で決めることになっている。現在団員は年額1万円、学生は5千円。今後値上げする可能性はある。

休団者は運営委員会に届けを提出して認められた者なので、演奏会に出なかった、練習に出なかったということで自動的に休団になるわけではない。

演奏会の参加費も最近はチケットの配布額と同額にしているが、細則に決められているわけではないので演奏会の参加費もその都度連絡する。

パート練習の謝礼についても細則で決まっているわけではなく運営委員会の取り決めに従って現在運営している。パートというのは、弦楽器は現在5セクション：Vn1. Vn2. Vla. Vc. Cb. 管楽器は2セクション：木管楽器、金管楽器。

パート練習の回数は演奏会ごとに3回まで。限度額は1回につき25,000円まで、30分を5,000円として2時間半までを目途としている。その都度指導者と連絡する方が指導者と協議してもらい、その額を財務委員会に連絡していただければ、指導者に振り込む。その際、連絡いただくのは銀行口座、口座番号、名義、謝礼額、支払調書を作成するので住所。

エキストラの謝礼は運営委員会で取り決められた額で、現時点ではプロトラは本番2万円 (交通費込)、練習は1回につき1万円 (交通費込み)、アマチュアは本番5千円 (交通費込)、練習は謝礼無し。

3) 企画委員会 (佐藤企画委員長) 委員長が私 (佐藤)、副委員長が榊原さん。会場係 宗像さん、パンフレット印刷物関係 白石さん、記録DVD係 鈴木伊砂子さん、案内状等医師会等の招待状等の作成係は山岡さん、ボランティアコンサートは安藤さん、託児係は武内さん、プレイ

ガイドのチケット担当 羽藤さん、定演のアンケート係は安藤みどりさん、Hp担当 伊藤秀明さん、チケット担当 桜井さん、ほか企画委員会に入っていないが愛知医報 高木、ほかにも定演当日とお手伝い頂いている方が何人かいる。今後ともよろしく願いしたい。

- 4) 技術委員会（橋本技術委員長） 演奏会の指揮者、曲目の選定、室内楽も技術委員会の主催。委員長が私、弦楽器からVla.の田中さんとVc.の平野さん、管楽器は木管が牧野さんと中島さん、金管が小石さんと川村さんと私（橋本）の7人体制。

議案7. 今年度のコンサートマスター、パートリーダーについて（技術委員長）

コンサートマスターは定演前半が谷先生、後半が小畑先生

パートリーダーは1stVn. 白石さん、2ndVn. 水野さん、Vla. 小山さん Vc.が森さん、Cb. 太田さん、Fl. 宗像さん、Ob. 榊原さん、Cl. 田中さん、Fg. 小島さん、Hn. 川村さん、Tp. 小石さん、Tb. 私（橋本）、Perc. 小山さん。

コンサートミストレス（小畑先生）から挨拶：谷先生は今日お休みです。練習に出てきていただきたいことと、本番前に仕上がってきたのに本番後はどーんと落ちるということを無くしたいという技術の維持の問題。また練習内容を皆さんで共有できるようにしていきたい。休んだ人に指導の内容が伝わらず何回でも同じことを指導者から言われるというのをどうやって改善したらいいのかというのを技術委員と相談して出来る限り技術向上を図りたいと思いますのでよろしくお願いします。

議案8. その他 質疑応答

その他（運営委員長）

退団者2名（3月31日付）：トランペットの長谷川真次さんとヴァイオリンの中川巳也子さん

入団者：オーボエの鈴木慈子さん 名古屋医療センターの薬剤師さんで医療センターでのボランティアコンサートを聴いて入団を希望された。現在岡崎フィルハーモニーの団員。

質疑応答

（団員）定演の反省会で長谷川さんが、「子育てをしながら演奏活動をしている方がいっぱいいらっしゃる。託児所が設けられるのならリクルート活動がやりやすい」と提案され、すごい提案をされるなど思った。小山邦子さんの話では何かあった時の保険があれば託児はすぐ出来るとのこと。託児があることを売りにしてリクルート活動をしていったらどうか。子どもがいる人に託児があったらいいなと思っているかどうかをきちんと聞いていただいて託児所を設けるかどうか検討して頂きたいことが第一点。

それでどれだけお金がかかるか計算していただいてHPでも何でもいいので発信していただいて希望があるかどうかをみる。それからリクルート活動をするときにそれをしゃべっていいかどうかを運営委員会で検討していただきたい。

二つめとして、定期演奏会の反省会である方が、ほかのオケに団員が行ってしまってどうして医師会オケに来ないのか、定演の反省会にどうしてこんなに来ないのかとおっしゃった。それは根源的な問題で、皆さんで議論する必要がある。医師会オケがほかのオケと違ってここいいなと思う何かがある

ば皆さん来るのではないか。どういうオケならいいなと思うか、そこを医師会オケがめざすかどうかだと私は思う。今このオケは年に1回定演を行い1年1年は進んでいくが長期スパンで物事を考えていない。トレーナーの先生に恵まれているので音楽監督になっていただくのかということも含めて皆さんで議論していただいて、このオケがどういうオケになっていったらいいのか、何を望むのか、人それぞれ思いが違うでしょうからその取っ掛かりをどこかで作っていただきたい。何かの形で一人一人の思いを吸い上げられるような工夫ができないかなと思う。

三つ目、コントラバスの平均年齢が高齢化していて存続が危ぶまれる。新しい人を引っ張ってくるにあたり若い人が若い人を引っ張ってくるという動きをしなければいけない。若い人たちがそれをおってくれるような動きをしなければいけない。それには運営委員の皆さんも年齢が高いので若い人たちにも入っていただいて、オケの活動をもっと変えていく、新陳代謝を図っていかなければいけない。そうすることによってコントラバスにも若い人たちに入っていただくということになるのではないか。若い人たちに活躍していただく、無理のない範囲で仕事を受けていただくという工夫をしていただきたい。

(団員) 皆さんが趣味なり技術なりを深めていくのであれば子育てをしながら継続できるよう、子育てのためにお金を使うという考え方が必要。以前、自分が利用していたポピンズという会社に依頼して、本番のお客さんの託児を何年か継続していたが、だんだん人数が少なくなり、いつの間にか利用しなくなったようだ。本番の時だけでなく練習の時にも団員のためにお願いするのであれば練習日程を早く決めなければいけないし、定常的に託児をしてもらった方がいいのか、託児の人数が少なければ一人の託児料金が上がるので、ある程度定常的に保育をしてもらいたい方がいるのかどうか、だいたい何歳の子供をみてもらうのかをアンケートを取るなり毎年調査をして今後につなげていただければと思う。

運営委員の若返りについて、運営委員が愛知県医師会のA会員（開業医）B会員（勤務医）C会員（研修医）の区別なく愛知県医師会会員であればいいというのであれば、勤務医の若い先生がやってくさると思う。

土曜日が練習日であると聞いてオケに入ると、日曜にほかのオケの練習がある人は医師会オケが練習の都合で日曜日になった時に、医師会オケの練習には行けないというふうになってしまうので、リクルートするときに日曜日に練習があることもあるということをちゃんとやったうえでリクルートしないといけない。練習の日程も早めに教えていただきたい。

(団員) ビオラの入団希望の方が今日みえている。名大医学部4年生の羽場ほの香さんです。

(運営委員長) 入団申込を私の方までお願いします。

(団員) 楽譜について、ヴァイオリンは人数が多くて欠席者に楽譜を配るのがたいへんで、楽譜が配布されたときに来ていないともらえないというシステムを少し考え直していただきたい。楽譜をどこかに入れておいてそこからダウンロードするというようにするのがいい。行かないともらえない、紙でもらうというのを是非やめていただきたい。できれば、紙の楽譜があってもダウンロードする版が分かっていたらその情報を頂きたい。今日来ない人が楽譜をもらえなかったら次のtuttiは初見大会になってしま

うので、それは絶対避けたい。

(ライブラリアン) わかりました。ダウンロードも考えなくはないが、版をどうするかという話があって、それは指揮者に聞かないと困るというのがあり、とりあえず練習のために何か手元にあった方がいいなという方にはダウンロード方法は教えます。同じ版でもスキャンする人が違うと体裁が全然違ったり音が違ったりボウイングが書いてあるのや無いものなど色々あるので、どれか統一してここにアップしてあるからここからダウンロードしてくださいというのが理想です。

(団員) 前、シューマンの時に混乱したことがあるので、楽譜系の小山先生ご夫妻の負担が大きいのではないかなというのもあって、もし何か出来ることがあれば・・・

(ライブラリアン) 曲が決まってから今日まで日にちがあまりないということもある。版がわかっていてこれですよという話であればそこに取りに行ってもらえばいい。今どきはたいいていのオーケストラはそうなっている。

ただネット環境が無いとかダウンロード出来ないという人がままいるので、その場合どうしたらいいのかというのがあって、それで私困るという人は誰かに頼っていただくシステムが出来てれば解決すると思う。それを各パートで融通していただければもう次回から出来ます。

(団員) 是非お願いします。

(ライブラリアン) 検討します。

(運営委員長) ダウンロードの方法を統一して出すといっぱい出てくるので、これにすることによっていけば、室内楽の時もそれでやって問題なくやってきているので、今後そっちの方に行くようになると思う。ただインターネット環境がない団員が周りにいる場合はパートである程度自分たちでコピーして渡すというようなことをやればいいのかと思う。

(ライブラリアン) 今日はB4で作ってきたが、A4の方がいいとか両面コピーがいいとかいろいろご希望があるので、ダウンロードする方式にすれば解決するので検討する。

(団員) 今後本番はポピンズ再開するか。

(企画委員長) 検討する。希望はあるか。

(団員) お客さんでポピンズがあるといいなという方はたくさんいる。

(企画委員長) コロナやインフルエンザが心配だったので辞めていたが、お医者さんがいっぱいいるので再開してもいいと思う。

(コンミス) どの位の方が預けるかというのがお客さんが対象だと読めない。

(企画委員長) 個人的にそろそろ再開してもいいと思う。団員の託児の話もあったし需要はあると思うので、再開を検討する。また運営委員会の方と相談する。

(運営委員長) 小山さんの奥様がプロフェッショナルなのでその辺りも考えて託児もするというのをHPに載せれば若い人たちに団員として入っていただける一つのきっかけになればいいと思う。合同委員会で具体的になるべく早めに具体的なことを練って考えていきたい。若い人を入れるとか、団員を入れること自体は色々難しいことがあって大変だが皆さんの意見を今後の合同委員会の議題としてなるべく具体的にできるように早急にやっていく。

(企画委員長) 運営協議会の報告の中で特定非営利法人愛知こどもホスピスプロジェクトが運営協議会で承認されたと報告があったが、正式には愛知県医師会の理事会で承認されて初めて決定となるので、まだ正式に決定ではない。

(監事・運営委員) 監事はお金だけではなく組織のトラブルにも目を光らせている。医師会交響楽団も今までずっと10年間予算はほとんど増えておらず、お金が少し余っていたので予算要求してこなかったが、今後人件費が上がるとかいろんな面でお金がかかる時代になってきたので、医師会に対してもう少しお金を要求する必要もあると思う。

第九も大体1千万位かかっていて、そのうち300万を県の医師会から補助を受けて、ほかにチケットとか色んなものでやってきたわけだが、300万で済むか、もう少し要求してもいいと思う。そのためには早く予算を組んでどれ位かかるかを早めに言って要求していくようにお願いしたい。

通常のお金も特にこちらから要求しておらず毎年100万の補助だが、医師会も色々お金がかかって予算上厳しいのは間違いないが、やはり必要なものは要求していかないといつまでも100万のままではやっていけないと思う。実際場所が使えないということも含めてそれだけでも余分にお金がかかっているわけだから、そういうことも含めて予算で要求していくことが大事だ。

(文責: 運営委員 高木 緑)